

今日のトピック 米国の雇用統計(2014年11月)

非農業部門雇用者数は約3年振りの大幅増

ポイント1 雇用者数は32.1万人増

2012年1月以来の増加幅

■11月の非農業部門雇用者数は前月比32.1万人の増加となりました。市場予想(ブルームバーグ集計)の同23.0万人を大幅に上回り、2012年1月(同36.0万人)以来の増加幅となりました。加えて、9月、10月分は合計4.4万人上方修正されました。失業率は5.8%と前月と同水準でした。

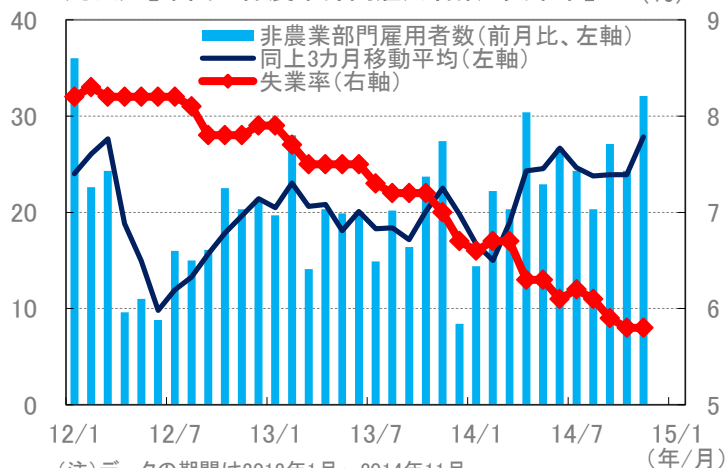
ポイント2 小売業などで堅調な増加

雇用の「質」の改善も進む

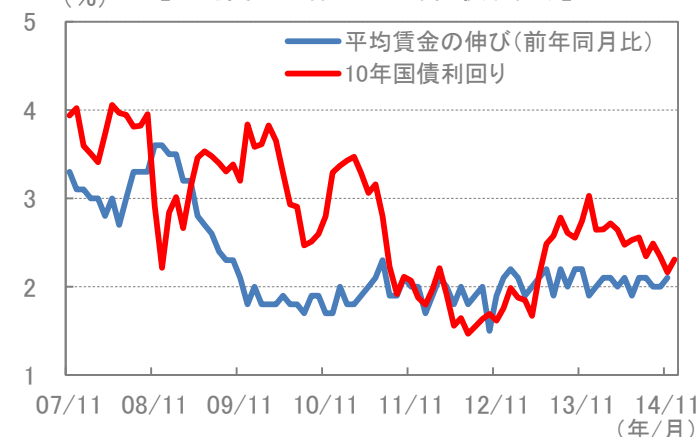
■非農業部門雇用者数増加のうち、民間部門は31.4万人の増加となりました。これを業種別に見ると、年末商戦向けの臨時雇用が増加したと見られる小売業や、ビジネスサービスにおいて前月を上回る増加となりました。このほか、レジャー・娯楽業などを除く幅広い業種で増加しました。

■11月は長期(27週以上)失業者や、パートタイマーの割合低下なども進み、雇用の「質」の改善が一段と進みました。また、平均賃金は前年同月比では+2.1%と安定した水準が続いていますが、前月比では+0.4%と2013年6月以来の高い伸びとなり、賃金が上向く兆しも見られます。

(万人)【米国の非農業部門雇用者数と失業率】 (%)



(%)【平均賃金の伸びと10年国債利回り】



今後の展開 今後も雇用環境の改善が進み、来年後半の利上げが見込まれる

■雇用者数は失業率の安定的な低下に必要とされる前月比+15～20万人を超える推移が続いているほか、11月のISM景況感指数は製造業・非製造業ともに高水準となったことなどから、今後も雇用環境の改善が見込まれます。

■雇用の「質」の改善も進んでいることから、市場では早期利上げ期待が高まっています。今月16日

から17日のFOMCでは、低金利政策を「相当期間」維持するとの文言が削除されるのかなどが注目されます。ただし、「物価上昇率2%」の目標は、賃金の伸びが緩慢なことから達成が遅れ気味であり、今後も、雇用関連指標のほか物価動向などが幅広く点検され、2015年後半に利上げが行われると見込まれます。

ここも チェック!

2014年12月08日 今週に迫った「暫定予算」の期限(米国)
2014年12月05日 米ドル円レートは120円台、株高傾向も進展

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。